

開催地名	大阪府泉佐野市
開催日時	令和5年11月2日(木) 10:45～12:25
開催場所	泉佐野市立長坂小学校体育館
語り部	吉田 亮一 (宮城県仙台市)
参加者	4～6年生児童、教職員 150名
開催経緯	本市における小・中学校では、防災教育を命を守ることをベースとしながら、災害発生の理屈を知ることや、備え方を学ぶこと、災害発生時の対処の仕方等を学ぶこと等をめざして、各校にて発達段階に応じて学習を位置付けて取組みを進めている。一方で、今後の防災活動の重要な担い手となる子どもたちに、南海地震等過去の災害による被害や経験を伝承していく機会は、地震発生からかなりの年月が経過していることから、経験者の減少や高齢化から活動が困難な状況があり課題となっている。
内容	<p>(1) はじめに</p> <p>なぜ自然災害が起こるのか。それは地球が活着ているからであり、東日本大震災は大人でも立ってられない程の揺れが2分以上続いた。地球と共に生きていくためにも、普段からの備えと準備、そして常に考えたことを行動することが大切である。</p> <p>(2) 東日本大震災の経験を通じて</p> <p>普段から地震に対する備え・準備が必要である。地震発生時の被害を想定して、例えば水・食料等の備蓄量(1週間分程の目安)や家や部屋の中を普段から整理整頓しておくことが大事。また、登下校時は、ブロック塀なども凶器になる事がある。東日本大震災の際は、道路が2メートルほど割れた所もあった。</p> <p>また寝ている時に地震に遭遇したら、布団にくるまって、ダンゴ虫の状態になり、枕元に防災用品6点セットを用意して欲しい。</p> <p>① 靴下</p> <p>② 厚底スニーカー：ガラスなどが割れても家の中を歩き回れる。</p> <p>③ 携帯ラジオ(イヤホン付けたまま)：停電でテレビなどが利用できなくなっても、情報収集ができる。またイヤホンをつけたままであれば、両手が塞がることもない。</p> <p>④ 防犯ブザー：笛はずっと吹き続けなければならないが、ブザーは電池がなくなるまで音は鳴り続ける。</p> <p>⑤ ヘッドライト：両手が塞がらない。また懐中電灯だと一人一台はないかもしれないし、居間・トイレなど家族内での個々移動にも便利。</p> <p>⑥ フード付き雨具：傘は必要なく、カップが便利。防寒にも対応できる。</p> <p>また、家族に自宅近くの避難経路、場所を確認することが重要。(家族が知らなければ地域の防災担当に確認)地域の一員として、何か出来るか常に考えて欲しい。</p>

(3) 避難所設営模擬体験

長坂小学校の4・5・6年生の生徒がそれぞれ受付班・物資班・炊出し班・設営班・避難誘導班・受付班・情報班・衛生班・総務班に分かれてそれぞれの役割で行動した。当時の新聞記事を張り出し、収納スペースの確保やシートの設営、避難民の誘導対応等、各生徒は講師のアドバイスを受けて取り組んだ。45分という限られた時間で出来るかは全員の協力が必要であり、上級生のリーダーシップにかかっている。

(4) 最後に

災害時の対応における約束事として「いつも皆が助け合い協力して、命の大切さと思いやる気持ちで仲良く暮らし災害に勝ちましょう」と伝えて皆で唱和し、日常生活でも進んで行動しましょうと唱えた。普段から防災に関する備えを行い、災害にも負けず勝ち進んで欲しい。



開催地より

防災についての基本的な考え方を、児童が想像しやすい実生活の一場面を例にしながら教えていただきました。また、減災の観点からも普段の整理整頓や備えることの大切さを伝えてもらいました。後半では、児童たちが実際に避難所を設営する活動がありました。

万が一の時に「子どもにはできない」ではなく「自分たちでもできる」「自分たちが支える」といった災害に立ち向かえる自信がついたと思います。